

厚生教育常任委員会

日時：令和6年6月20日（木）
厚生教育分科会終了後
場所：第1委員会室

1 付託議案の審査

- 報告第10号 専決処分した事件の承認について（島田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）
- 議案第35号 令和6年度島田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）
- 議案第36号 令和6年度島田市病院事業会計補正予算（第1号）
- 議案第38号 島田市こども館条例の一部を改正する条例について

2 所管課からの報告事項

[こども未来部]

○保育支援課

島田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める規則の一部改正について

[教育部]

○社会教育課

令和7年島田市はたちの集いの開催について

3 その他

- ・所管事務調査について
- ・議会報告会における課題について

付託議案審査項目（厚生教育常任委員会）

令和6年6月20日

【議案書頁/説明書・参考頁】

- 報告第10号 専決処分した事件の承認について（島田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例） ----- 40/48・49

【議案書頁/予算に関する説明書頁/補正予算概要書頁】

- 議案第35号 令和6年度島田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）
----- 48・49/75~77/16・17

- 議案第36号 令和6年度島田市病院事業会計補正予算（第1号） ----- 51/-/-

【議案書頁/説明書・参考頁】

- 議案第38号 島田市こども館条例の一部を改正する条例について ----- 54/58・59

島田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める規則 改正内容

連番	改正概要	新	旧	市規則の該当箇所
1	小規模保育事業所A型の3歳以上児の職員配置基準			第30条
2	小規模保育事業所B型の3歳以上児の職員配置基準	1 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね15人につき1人	1 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね20人につき1人	第32条
3	保育所型事業所内保育事業所の3歳以上児の職員配置基準	2 満4歳児以上の児童 おおむね25人につき1人	2 満4歳児以上の児童 おおむね30人につき1人	第45条
4	小規模型事業所内保育事業の3歳以上児の職員配置基準			第48条

改正根拠

○児童福祉施設の設備及び運営に関する基準及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部を改正する内閣府令（令和6年内閣府令第18号）

新 条 文

(職員)

第30条 省略

2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とする。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね15人につき1人（法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

(4) 満4歳以上の児童 おおむね25人につき1人

3 省略

(職員)

第32条 省略

2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる乳幼児の区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね15人につき1人（法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

(4) 満4歳以上の児童 おおむね25人につき1人

3 省略

(職員)

第45条 省略

2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数以上とする。ただし、一の保育所型事業所内保育事業所につき2人を下回ることはできない。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね15人につき1人（法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

(4) 満4歳以上の児童 おおむね25人につき1人

3 省略

(職員)

対 照 表

旧 条 文

(職員)

第30条 省略

2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とする。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね20人につき1人（法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

(4) 満4歳以上の児童 おおむね30人につき1人

3 省略

(職員)

第32条 省略

2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる乳幼児の区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね20人につき1人（法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

(4) 満4歳以上の児童 おおむね30人につき1人

3 省略

(職員)

第45条 省略

2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数以上とする。ただし、一の保育所型事業所内保育事業所につき2人を下回ることはできない。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね20人につき1人（法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

(4) 満4歳以上の児童 おおむね30人につき1人

3 省略

(職員)

第48条 省略

2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね15人につき1人(法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)

(4) 満4歳以上の児童 おおむね25人につき1人

3 省略

第48条 省略

2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。

(1) 省略

(2) 省略

(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね20人につき1人(法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)

(4) 満4歳以上の児童 おおむね30人につき1人

3 省略

府令

○内閣府令第十八号

児童福祉法(昭和二十二年法律第百六十四号)第三十四条の十六第二項及び第四十五条第二項の規定に基づき、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準の一部を改正する内閣府令を次のように定める。

令和六年三月十三日

内閣総理大臣 岸田 文雄

児童福祉施設の設備及び運営に関する基準及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部を改正する内閣府令

第一条 児童福祉施設の設備及び運営に関する基準(昭和二十三年厚生省令第六十三号)の一部を次のように改正する。
次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
<p>第三十三条 [略]</p> <p>2 保育士の数は、乳児おおむね三人につき一人以上、満一歳以上満三歳に満たない幼児おおむね六人につき一人以上、満三歳以上満四歳に満たない幼児おおむね十五人につき一人以上、満四歳以上の幼児おおむね二十五人につき一人以上とする。ただし、保育所一につき二人を下ることはできない。</p>	<p>第三十三条 [同上]</p> <p>2 保育士の数は、乳児おおむね三人につき一人以上、満一歳以上満三歳に満たない幼児おおむね六人につき一人以上、満三歳以上満四歳に満たない幼児おおむね二十人につき一人以上、満四歳以上の幼児おおむね三十人につき一人以上とする。ただし、保育所一につき二人を下ることはできない。</p>

備考 表中の「」の記載は注記である。

第二十一条 (家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部改正)

第二条 家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準(平成二十六年厚生労働省令第六十一号)の一部を次のように改正する。
次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分をこれに対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後	改 正 前
<p>(職員)</p> <p>第二十九条 [略]</p> <p>2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に一を加えた数以上とする。</p> <p>一・二 [略]</p> <p>三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね十五人につき一人(法第六条の第三十項第二号又は特区法第十二条の四第一項の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>四 満四歳以上の児童 おおむね二十五人につき一人</p> <p>第三十一条 [略]</p> <p>2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる乳幼児の区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に一を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。</p> <p>一・二 [略]</p> <p>三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね十五人につき一人(法第六条の第三十項第二号又は特区法第十二条の四第一項の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>四 満四歳以上の児童 おおむね二十五人につき一人</p>	<p>(職員)</p> <p>第二十九条 [同上]</p> <p>2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に一を加えた数以上とする。</p> <p>一・二 [同上]</p> <p>三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね二十人につき一人(法第六条の第三十項第二号又は特区法第十二条の四第一項の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>四 満四歳以上の児童 おおむね三十人につき一人</p> <p>第三十一条 [同上]</p> <p>2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる乳幼児の区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に一を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。</p> <p>一・二 [同上]</p> <p>三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね二十人につき一人(法第六条の第三十項第二号又は特区法第十二条の四第一項の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>四 満四歳以上の児童 おおむね三十人につき一人</p>

〔職員〕

第四十四条 〔略〕

2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数以上とする。ただし、保育所型事業所内保育事業所一につき二人を下回ることはできない。

〔一・二 略〕

三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね十五人につき一人（法第六条の三第十二項第二号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

四 満四歳以上の児童 おおむね二十五人につき一人

3 〔略〕

〔職員〕

第四十七条 〔略〕

2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に一を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。

〔一・二 略〕

三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね十五人につき一人（法第六条の三第十二項第二号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

四 満四歳以上の児童 おおむね二十五人につき一人

3 〔略〕

備考 表中の「」の記載は注記である。

附則

（施行期日）

1 この府令は、令和六年四月一日から施行する。

（経過措置）

2 保育士及び保育従事者の配置の状況に鑑み、保育の提供に支障を及ぼすおそれがあるときは、当分の間、この府令による改正後の児童福祉施設の設備及び運営に関する基準（次項において「設備運営基準」という。）第三十三条第二項並びに改正後の家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準（次項において「家庭的保育事業等基準」という。）第二十九条第二項、第三十一条第二項、第四十四条第二項及び第四十七条第二項の規定は、適用しない。この場合において、この府令による改正前の児童福祉施設の設備及び運営に関する基準第三十三条第二項並びに家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準第二十九条第二項、第三十一条第二項、第四十四条第二項及び第四十七条第二項の規定は、この府令の施行の日以後においても、なおその効力を有する。

3 前項の場合を除き、この府令の施行の日から起算して一年を超えない期間内において、設備運営基準第三十三条第二項並びに家庭的保育事業等基準第二十九条第二項、第三十一条第二項、第四十四条第二項及び第四十七条第二項の規定による基準 満三歳以上満四歳に満たない児童及び満四歳以上の児童に対し保育を提供する保育士及び保育従事者の数に関する基準に限る。以下この項において同じ。）に従い定める児童福祉法第三十四条の十六第一項に規定する市町村の条例又は同法第四十五条第一項に規定する都道府県の条例が制定施行されるまでの間は、設備運営基準第三十三条第二項並びに家庭的保育事業等基準第二十九条第二項、第三十一条第二項、第四十四条第二項及び第四十七条第二項の規定による基準は、当該市町村の条例又は当該都道府県の条例で定める基準とみなす。

府令・省令

○内閣府令第一号

○文部科学省

就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）第十三条第二項の規定に基づき、幼保連携型認定こども園の学級の編制、職員、設備及び運営に関する基準の一部を改正する命令を次のように定める。

令和六年三月十三日

内閣総理大臣 岸田 文雄
文部科学大臣 盛山 正仁

〔職員〕

第四十四条 〔同上〕

2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数以上とする。ただし、保育所型事業所内保育事業所一につき二人を下回ることはできない。

〔一・二 同上〕

三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね二十人につき一人（法第六条の三第十二項第二号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

四 満四歳以上の児童 おおむね三十人につき一人

3 〔同上〕

〔職員〕

第四十七条 〔同上〕

2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に一を加えた数以上とし、そのうち半数以上は保育士とする。

〔一・二 同上〕

三 満三歳以上満四歳に満たない児童 おおむね二十人につき一人（法第六条の三第十二項第二号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）

四 満四歳以上の児童 おおむね三十人につき一人

3 〔同上〕

令和7年島田市はたちの集い実施概要

1 目的・意義

これからの人生を自分の力で生き抜こうとする青年を祝い励ますことで、ふるさと島田市の良さを再認識し市民意識の醸成を図る。

また、友人と一堂に会し、人生を振り返るとともにこれからの将来を互いに鼓舞しあう機会を設ける。

2 主 催 島田市・島田市教育委員会

3 日 時 令和7年1月12日（日） ※成人の日の前日
 受 付 13時00分～13時50分
 （1部） 式典 14時00分～14時30分
 （2部） アトラクション 14時30分～15時15分

4 会 場 島田市総合スポーツセンター ローズアリーナ

5 対 象 者 平成16年4月2日から平成17年4月1日までに生まれた住民登録者及び転出者で島田市のはたちの集い（以下、「式典」という。）に参加を希望する人

6 対 象 者 数 959人（令和6年4月1日時点）

学 区	令和7年	令和6年	増減
第一中学校区	154	168	△14
第二中学校区	206	246	△40
六合中学校区	180	171	9
旧北中学校区	51	41	10
初倉中学校区	149	144	5
金谷中学校区	190	187	3
川根中学校区	29	27	2
合 計	959	984	△25

※令和6年出席率（全体） 72.4%

※令和7年参加見込み 720人（959人×75%）